



札幌部会(第11回)

日 時: 2014年9月27日(土) 14:30~17:00

場 所: Sapporo55 ビル 5階キャリアバンク

参加者: 野間(同志社大)、李(大阪市長吉中)、濱地(道教大札幌校)、川瀬(札幌清田高)、松澤(札幌開成高)、竹内(浦河町立浦河第一中)、中村(札幌光星中高)、兼間(札幌市立定山溪中)、山下(札幌市立簾舞中)、大上(道教大札幌校教育学部) [順不同] 以上10名

【内容要旨】

1. まず、経済教育ネットワーク理事の野間から、東京証券取引所と共催の「先生のための夏休み経済教室」(名古屋、大阪、東京高校、東京中学)の結果が報告された。それを受けて、東京中学の部に参加した兼間氏から、二日間の内容が紹介され、参加した感想などが報告された。

続いて野間から、経済教育ネットワークの最近の動向について、各部会、秋の経済教室の内容などが紹介された。また、読売教育ネットワークへの参加、企業についてのワークショップ開催の計画などが報告された。

2. 次に川瀬氏より、以下の四点が報告、提案された。

①経済教育の本質の確認(知識ばかりでなく、ものの見方・考え方)と参考文献の紹介

②地元根ざした授業実践の例として名寄工業高校所属時の「名寄を知る」の紹介

参照: 前回部会で山崎氏による北見に根ざした教材紹介があった

③北海道をネタにした授業実践例の提案

『北海道2030年の未来像』の活用、人口減少との関連づけ

北海道独立論を考えさせる

北方領土問題を理解し解決策を考える

④北海道を中心とした日本全国での活用

土地の広さの感覚が本州以南とちがう点、東アジアやロシアとの意外な近さ、など

3. 大阪から参加された李氏から、ふたつの授業実践が報告された。ひとつは、政府の仕事と財政に関するものである。政府の仕事の確認、それにどれほど費用がかかるかのクイズ、それをまかなうための税制の設計、公正と効率性についての考察、地元を念頭においた税制を議論・提案、という手順で進められる。

もうひとつは、需要と供給の教え方に関するものである。前半では、価格の決まり方について考察したあと、それを理解するための有用な道具である需要曲線、供給曲線を生徒への質問から描く。後半ではさらに需要曲線供給曲線を用いて、税制効果の分析、余剰分析、価格変動の大小との関係、などの応用問題に進んでいる。

いずれも、写真や具体的金額などを使いながら身近な問題であることを感じさせ、それでいて教科書で必要とされる概念的な理解を深め、さらにグループ学習による意見交換から発表・言語活動に進むように設計されている。意識的に難しいところも入れながら、関心を高め基礎的なところを学習させつつも、より進んだ学習理解を求める生徒への関心も保つようにつくられている。

ふだん大阪部会に参加している李氏と札幌部会の参加者との間で、質疑や意見交換が(部会後の懇親会にまで持ち越されて)活発に行われた。

(文責 野間敏克)

次回開催予定: 2015年1月31日(土)、時間は14:30~17:00、場所はキャリアバンクの予定。